

益田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
益田-1	高津川流域木材生産拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・利用間伐による木材生産量増については、県外研修等により職員のスキルアップ(意識向上、技術向上)が図れた。また、ワーキンググループ会議の開催により、森林経営計画の樹立に管内関係者が深く関与するようになり、協働体制が強化された。 ・森林情報の整理と共有については、森林GISを用いて、管内ネットワークを活かした森林経営計画の作成の仕組みが構築できた。 ・伐採跡地の森林再生については、森林GISのデータ共有により、市町村森林整備計画の達成に向けた仕組みができた。また、主伐予定地を森林経営計画に組み込む具体的な仕組みが構築された。 	利用間伐による木材生産量(m ³ 4年間累計)	28,000	23,680	85%
				(単年9,500)	(単年8,444)	
益田-2	木材需要拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・流域材の普及促進の検討材料とするため、視察及び講演会を行った。視察等により得られた知見を、今後の実際の取組へ活かしていくことが重要である。 ・県外販路の拡大に向け、積極的に取り組んでいる。木造建築についての情報収集等を行い、より効果的な需要拡大の手法を模索・実施していく必要がある。 	乾燥材製品供給量(m ³)	10,000	10,173	102%
			県外等への木材製品出荷量(m ³)	6,000	7,129	119%
			「乾燥材使用の家」供給グループによる高津川流域材使用住宅の建築(棟)	7	6	86%
益田-3	原木しいたけ生産安定化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・しいたけ原木の安定供給システムの構築については、生産者実態調査により原木需要の実態を確認した。また、クヌギ私有林の所有者情報を収集し、供給システムの足がかりができた。吉賀町分収林の伐採はできなかったものの、津和野町有林伐採、及び益田市においてクヌギ林が造成された。 ・サル被害対策の構築については、日原の生産者で人工ホダ場の導入候補を把握し、施設設置に向けた協議を行った。管内の被害地の現況を把握・分析し、改善点の検討を行った。 ・生産者実態調査により遊休施設情報の拡充・提供を行った。研修開催による技術の普及や、給食参入による販路開拓ができた。 	原木しいたけホダ木5,000本以上の生産者数(名)	23	23	100%
			新たな生産者数(累計:名)	3	3	100%
			人工ホダ場モデル施設(累計:施設)	1	0	0%